

千葉大学病院 ニュース

2005年1月

第3号



千葉大学医学部附属病院
Chiba University Hospital

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-222-7171 (代表)

URL <http://www.ho.chiba-u.ac.jp>

本院の基本理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

本院の基本方針

- 患者中心の最適な医療を提供します。
- 安全で良質な医療を実践します。
- 最先端の診断・治療法の開発を目指します。
- 卒前・卒後および生涯教育を通してプライマリ・ケアから先端医療までを実践できる医療人を育成します。

本院における患者の権利

- 公平で良質、かつ安全な医療を受けることができます。
- プライバシーが保護されます。
- 診断・治療法等に関して、十分な情報提供と説明を受けたうえで、自らの意思で決定できます。
- 臨床研究に関し十分な説明を受けたうえで、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

患者様へ

本院は、患者中心の質の高い医療を目指すとともに、次世代を担う優れた医療人を育成する医療機関であります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

診

療

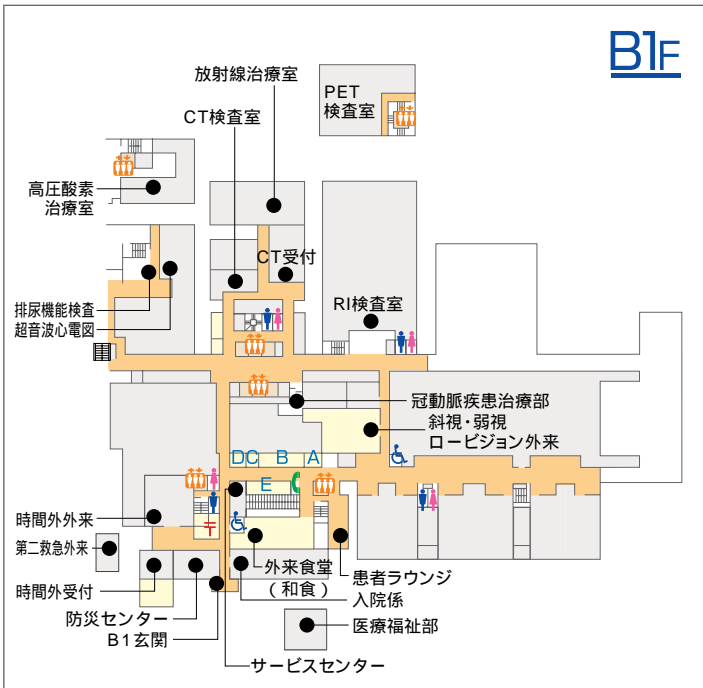
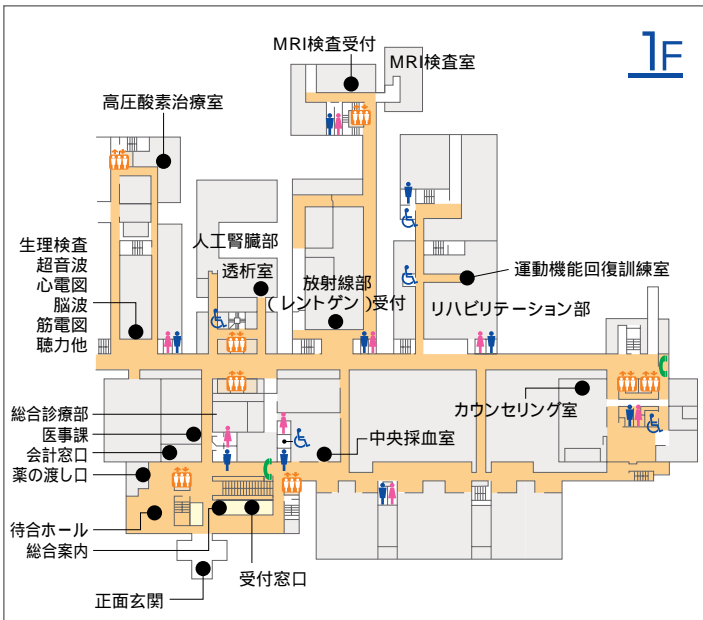
科

一

覧

診療科等名	場所	初診受付日
消化器内科	1F	月～金
血液内科	1F	月～金
腎臓内科	1F	月～金
アレルギー・膠原病内科	1F	月、火、木
糖尿病・代謝・内分泌内科	1F	月～金
循環器内科	1F	月～金
呼吸器内科	1F	火、木
心臓血管外科	2F	月(偶数月)、水、金
食道・胃腸外科	2F	月、火、木
肝胆膵外科	2F	月、水、金
乳腺・甲状腺外科	2F	月～金
呼吸器外科	1F	月、水、金
麻酔・疼痛・緩和医療科	B1F	月、金
腎・泌尿器・男性科	2F	月～金
整形外科	2F	火、木、金
眼科	1F	月～金
皮膚科	B1F	月、水、木、金
耳鼻咽喉・頭頸部外科	2F	月、水、金
歯科・顎・口腔外科	B1F	月、火、木、金
形成・美容外科	1F	火、木
精神神経科	B1F	月～金
脳神経外科	2F	月、水、金
神経内科	1F	月～金
婦人科	B1F	月、水、金
周産期母性科	B1F	月、水、金
小児科	1F	月～金
小児外科	1F	月、火、木
放射線科	B1F	月～金
総合診療部	1F	月～金
光学医療診療部	2F	火、木
こどものこころ診療部	B1F	水
感染症管理治療部	1F	月～金

- ・初診受付時間は、原則として午前8:30～10:30です。詳細は、総合案内(内線6087)もしくは各診療科の外來窓口にお尋ねください。
- ・紹介状をお持ちでない初診の患者様は、特定療養費(2,625円)を頂きます。



記号のご案内



男子トイレ



車椅子対応トイレ



エレベーター



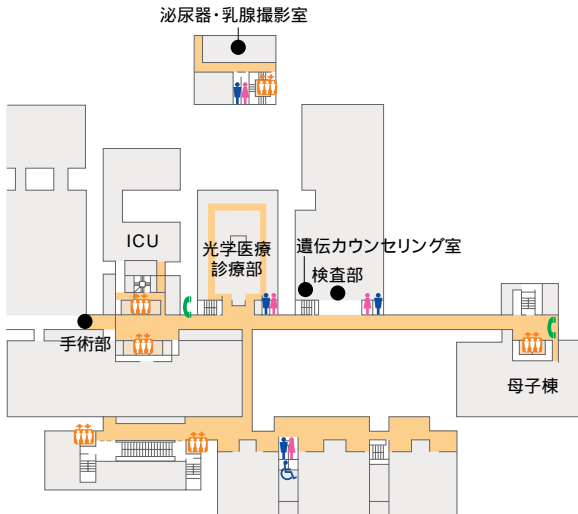
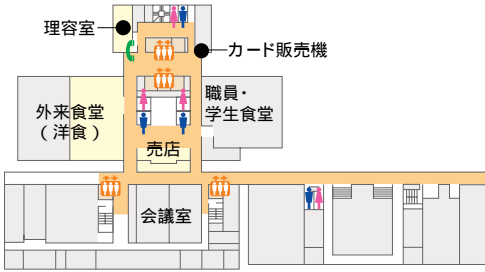
女子トイレ



公衆電話



エスカレーター



- | | | | |
|---|--|---|---|
|  階 段 |  B クリーニング |  D 売 店 |  患者様通路 |
|  A 銀 行 |  C 花 屋 |  E コインロッカー |  〒 郵便局 |

トピックス

ICT(感染管理チーム)を御存知ですか？

感染の危険は社会のいたる所にあるのですが、特に病院には微生物への抵抗力が低下されている患者様が多数来院されています。ICTはこのために常に病院内の環境・感染対策としての医療行為全般について、全職員と協力し先頭で活動しています。

ICTは感染症管理治療部の下に属し、医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員等、計32名で構成されています。別に病院長を委員長とする院内感染予防対策委員会(計18名)も併存し、ICTは本委員会と連携し、かつその実働チームとして現場での日常活動を担っています。また、各科(部)および各病棟にそれぞれ1名ずつのICTリンクドクター・リンクナース(計65名)を擁し、細やかな対応が可能となっています。

ICTは、毎月2回の定例会に加え、入院患者様からの病原体検出情報に基づいた病棟ラウンドを毎週定期に行い、リンクドクター・リンクナースと協力して抗菌薬の適正使用、院内感染対策を行っています。この他、4チームに分かれ、病棟・外来を定期的にラウンドし、病院環境のチェックをしています。またマニュアル作成と職員への感染対策教育も担当しています。

インフルエンザや風邪のシーズンです。風邪症状のある方はマスクの着用にご協力下さい。鼻水を拭いた手にはウイルスが付着している可能性もあり、手洗いも重要です。インフルエンザの予防にはワクチンが最も有効です。毎年、シーズン前の接種をお勧めします。

病院環境は清潔かと思いますが、お気づきの点がありましたら、ICTに御意見お寄せください。また、チーム員は胸にバッジをしていますので、お気軽にお声をおかけください。



病棟ラウンドとICTバッジ

大学病院における医療人の育成

－卒前・卒後及び生涯医学教育－

千葉大学病院ニュースの1ページに掲載されている本院の基本理念には「次世代を担う医療人の育成に努める」と書かれています。医師ばかりでなく看護師、薬剤師など医療に関係する専門職業人（医療人）の育成が大学病院の重要な役割です。

医学生、研修医（卒後2年間研修する医師、この期間を特別に卒後研修と呼んでいます）は患者様の診療に従事しながら医療を学びます。彼らはまだ十分な知識、技能は身に付けていませんが、患者様の一番近くにおいて、一生懸命学習し、働いています。医学教育や卒後研修の目標は医学的知識や手技の修得だけではありません。患者様の立場に立って診療を行える診療態度の育成がさらに重要です。医師に求められる態度、人格の育成は医学部入学から始まり、卒後研修でも引き続き行われます。

基本理念に「卒前・卒後及び生涯教育をとおして」と書かれていますように医師になるためには、長い年月の研鑽が必要です。医学生は6年間の医学教育(卒前医学教育)を受け、大学を卒業して医師国家試験をパスすると医師免許証が与えられます。卒後2年間の初期研修（卒後研修）を修了した後に、さらに専門医として継続的に専門的な医学知識、技能を修得する修練（生涯教育）を生涯にわたって続けることが求められています。これは患者様に常に最善の医療を提供するための医師の使命であり義務なのです。



病棟で診察をする研修医

診療科等のご紹介

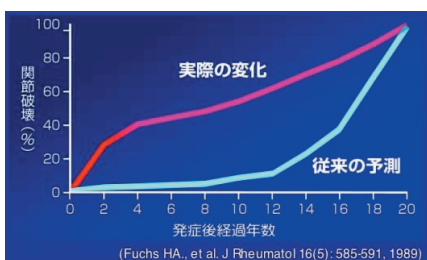
アレルギー・膠原病内科 喘息やSLEなどの診療を行います

免疫系はご承知のように、リンパ球などの免疫細胞が細菌やウイルスから体を防御するシステムです。しかし、アレルギーでは普通は反応しないハウスダストなどの微量な無害の外来抗原（アレルゲンと呼びます）に対して、免疫系が過剰に反応してしまいます。自己免疫もやはり普通は反応しない自分自身の細胞成分（自己抗原と呼びます）に対して、免疫系が過剰に反応して病気が起こります。

アレルギー・膠原病内科では、気管支喘息などのアレルギー疾患、全身性エリテマトーデス（SLE）、関節リウマチなどの膠原病・自己免疫疾患の患者様を診療しています。今回は気管支喘息と関節リウマチの新しい治療についてご紹介します。

喘息の治療では吸入ステロイド薬が基本です。最近では粒子径の小さい吸入薬が開発され著明な治療効果をあげています。

関節リウマチの治療はメソトレキセートなどの抗リウマチ薬やステロイド薬が中心です。最近、炎症をひき起こすTNF- α という物質に対する抗体（抗TNF- α 抗体）が開発され、劇的な効果をあげています。今のところ、このTNF- α 抗体の治療は抗リウマチ薬でも治療効果が不十分な比較的重症な患者様に用いられます。



長期臨床緩解(10%)
中間型(15-30%)
進行型 (大多数)

不可逆的変化の予防のために早期診断、早期治療が必要です。

図 関節リウマチの関節破壊の経過

食道・胃腸外科 消化器癌の克服を目指して

食道・胃腸外科では食道癌、胃癌、大腸癌を治療しています。癌は日本人の死亡原因の第1位です。毎年30万人の方が癌で亡くなっており、胃癌、食道癌、



世界初の食道癌遺伝子治療実施風景

大腸癌はその主要な原因です。食べた物が飲みこみにくい、胃が痛い、お腹が張る、便が出にくい、健康診断で便潜血が陽性である、このような症状の人は食道・胃腸外科で胃と大腸の内視鏡、腹部の超音波、CT、血液の腫瘍マーカーの検査を行ってください。万一、癌と診断されても御心配なさらないでください。外科と聞くと怖いという印象を持つ方もいらっしゃると思いますが、私達食道・胃腸外科では患者様にやさしく、プライドと人格を尊重しつつ、癌の根本的治療を行うよう心がけています。例えば食道癌でも早期癌なら内視鏡による癌の切除で十分です。進行癌の方には手術を行いますが、当科の外科医の手術の腕前は歴史的にも世界の中で卓越していると評価を受けており、患者様は安心して安全な手術を受けることができます。

当科では研究も盛んです。平成15年度から食道癌の「多戦略的治療拠点形成」というテーマで文部科学省から多額の研究費を頂いて先端的な研究を行っています。21世紀に入ってすぐ、世界で初めての食道癌の遺伝子治療を開始しました。また、世界で唯一重粒子線を食道癌にかけて手術をする先端的な治療法の開発が進行中です。

近年、癌は遺伝子の異常がその原因であることが明らかにされてきました。私達が行っている遺伝子研究の成果を取り入れた診断法や治療法によって、癌が克服される日が近いと期待されています。

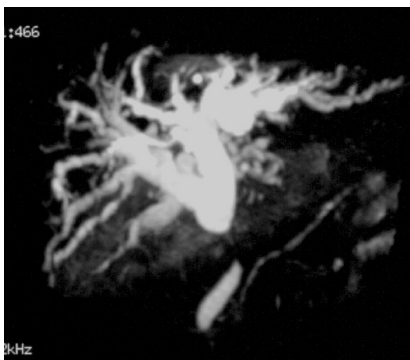
診療科等のご紹介

肝胆膵外科 黄疸と肝臓、胆道、膵臓がん

閉塞性黄疸とは肝臓で作られた胆汁が胆管という胆汁の流れる管を通るどこかで流れが堰き止められて来ず黄疸をいうのであって、医学的にはこのような黄疸を外科的黄疸といいます。つまり肝炎などで出現する黄疸と異なった原因で起こるため、内科的黄疸という表現と区別しています。閉塞性黄疸の原因となる病気は胆石がありますが、他に肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、十二指腸癌など悪性腫瘍などによっても引き起こされます。これらの閉塞性黄疸を引き起こす悪性腫瘍は現在、外科切除以外には病気を治し得る治療はありません。したがって、このような病気になってしまった患者様は何とか腫瘍を完全に取り除くために外科切除を受けていただくかねばなりません。しかしながら、黄疸のある患者様の外科手術は一般手術に比べ、リスクが高く、また術前の検査に時間を要し、入院期間も長くなる傾向があります。

千葉大学の肝胆膵外科においては全国からこのような黄疸を伴った手術目的の患者様が多く紹介され、その治療に携わっており、医師も看護師も皆、この病を持った患者様の治療、ケアに慣れ、安全に手術を終え、短い期間で退院していただくことが可能となっております。

このような病気でお困りの方々は当科受診の上、遠慮なく御相談いただければと思います。



MRI による胆管閉塞の画像

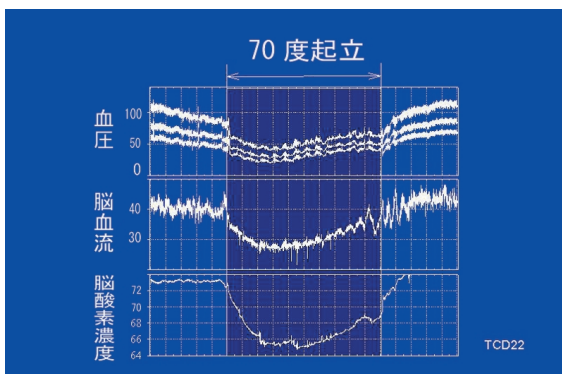
神経内科

自律神経の働き — 起立性低血圧について —

自律神経失調症という病名をテレビ等で耳にすることがあると思いますが、自律神経とはいったい何でしょうか？ 人の神経は大きく分けると運動神経、感覚神経、そして自律神経の3種類に分類できます。自律神経は血圧、発汗、排尿、腸管の動きなどの調節を行っており、人が生きていくために必須の神経です。自律神経の働きが悪くなると、立ちくらみ、頻尿、排尿困難、便秘といった様々な症状が起こります。

立ちくらみは血圧の調節障害で起こります。立ち上がった時に体中の血液は下半身に溜まり、脳に十分な血液が供給されなくなります。これを防ぐために自律神経は下半身の血液貯留を減らし脳の血流を確保します。自律神経の働きが悪い人は下の図にあるように立ち上がったときに血圧が低下し、脳血流、脳酸素濃度が減少し、立ちくらみを起こします。このように立ち上がったときに血圧が下がる現象を起立性低血圧といいます。

立ちくらみの検査は自律神経機能検査が有用です。立ちくらみなどの自律神経症状に悩んでいる方は神経内科外来まで御相談ください。



図の説明：寝ている状態から70度の状態に他動的に起立させることで血圧、脳血流、脳酸素濃度の低下を認めます。

薬剤部から

お薬の保管方法は大丈夫？

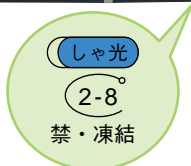
昨年の夏は記録的な暑さでした。所によっては40度にもなったようですね。皆様も暑さを避けてお過ごしになったと思いますが、そんな時お薬はどんな所に置かれていたのでしょうか？

お薬は種類によって、高い温度に弱かったり、湿気を嫌ったりするものがあります。

そんな情報どこで調べればいいの？と思われる方もいらっしゃると思いますね。院内でお薬を受け取られた方は、薬袋をよく見てくださいね。ここにはお薬を使用するに当たっての情報が書かれています。保険薬局でも保管方法についての説明をしています。

でも、昨年の夏みたいだったら、クーラーのない部屋ってすごく暑かったはず、室温って何度位のことなの？通常お薬の保管では“室温：1～30度、冷所：15度以下”の決まりがあります。ただしインスリン等の注射薬や点眼薬の中には、もう少し低い温度での保管が必要な場合があります。保管温度が容器に表示されていますので、この機会によく見て保管方法を確認してはいかがでしょうか。

これらの情報は“いのはなだより”に記載されています。“いのはなだより”はお薬を安全に使用していただくために、薬剤部で発行しています。ご興味のある方は薬剤部のお薬渡し口までどうぞ。



インスリン



貯法
遮光10℃以下

点眼薬

看護部から

ナースの「知っとくお得」講座

寒さが厳しい季節です。

【体の“冷え”でお困りではありませんか？】

最近、体が冷えている女性が増えています。月経痛、頭痛、肩こり、便秘、のぼせ、ほてり、倦怠感...これらの不調の多くの原因は、“冷え”に関係していると言われています。

冷えの チェック

- 冬、暖房の利いたところでビールやアイスをとりますか
- 冬に季節はずれの野菜や果物をよく食べますか
- 甘いものは好きですか
- 慢性的に睡眠不足ですか

一つでも当てはまる項目があった人は、自分では気づかないうちに体を冷やす生活をしています。(すでに冷えがある可能性があります)


【冷え対策に欠かせない半身浴または足湯】

やり方は簡単。みぞおちから下だけ38 前後のぬるめのお湯にゆったりと汗をかくまで(約40分)つかただけ。ぬれてもいい本などをお風呂に持ち込めばあっという間です。体が芯から温まり、続けることで月経痛などはかなり改善されます。バケツにお湯を入れて行う足湯でも効果があります。お湯は注ぎ足して温度を調節して。温まって体がゆるむので、よく眠れるようになります。

【ウォーキングは最高のエクササイズ】

歩くことは全身の血液循環を良くし、便秘や肩こりの解消にも役立ちます。歩き慣れていない人は20分くらいからはじめ、徐々に長くしていくと歩くことが気持ちよくなってきます。妊娠中の方は毎日1~2時間歩けば、安産まちがいなし! のからだづくりができます。



【旬のものを食しましょう】 

寒い冬に冷たい食べ物は、冷えのダブルパンチ! 野菜や果物は「身土不二の原則」といって、その土地で出来る季節のものを食べるのが、自然にさからわずいいとされています。冬には根菜類など煮込むことで体の中から温める食材が出回っています。甘いものも体を冷やしますので、摂り過ぎには注意です。

今日からさっそく始めて、

冷えのない「気持ちいいからだ」を手に入れましょう。



千葉大学医学部附属病院への交通案内



ご来院にはバスが便利です。

1. JR千葉駅から

東口正面7番のバス乗り場から「大学病院」または、「南矢作」行きバスに乗車、「大学病院」で下車。

(約10分毎、所要時間約15分)

2. JR蘇我駅から

東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乗車、終点「大学病院」で下車。(約15分毎、所要時間約15分)

3. 京成電鉄 千葉中央駅からタクシー(所要時間約10分)

車でのご来院について

本院は、外来駐車場が狭く、ご来院の皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。

ご来院の際は公共交通機関をご利用くださいますようお願い申し上げます。

(表紙写真は戸 安司氏写真集「翼」より)